**UN-HABITAT**
**United Nations Human Settlements Programme**

**Regional Office for Asia and the Pacific - Fukuoka**

ACROS Fukuoka Building, 1-1-1 Tenjin, Chuo-ku, Fukuoka 810-0001, Japan
Telephone: (81-92) 724 7121 Facsimile: (81-92) 724 7124
E-mail: habitat.fukuoka@unhabitat.org

平成 23 年 1 月 7 日

# 「いのちの水」事業

# 事業報告

国連ハビタットが、福岡ハビタット研究会より 2009 年 4 月末に受理した 5 万ドルの義援金により、ミャンマー及び中国で実施した「いのちの水」事業に関して以下の通り報告する。

## ミャンマー

１　事業名：　サイクロン被災地域の学校への水供給事業
２　対象地区：エーヤワディー管区 Dedaye 地区及び Pyapon 地区
３　実施機関：国連ハビタット
４　協力機関：MOSWERR, MoH, UNICEF, UNDP, World Vision, Save the Children

５　事業内容：
ミャンマーのデルタ地帯では、昔から地表水を人々の飲料水として利用してきており、雨水集水タンクや池にコミュニティ単位で雨水を貯める慣習だった。2008 年にミャンマーを襲ったサイクロン・ナルギスによる洪水被害で、コミュニティの貯水池は深刻な塩害被害を受けた。また、以前は学校に適切な水供給や衛生施設があったが、サイクロンにより崩壊してしまった。深井戸はコストがかかるため、雨水集水タンクが被災者への水供給に最適な方法である。

国連ハビタットは 1992 年から 2002 年までデルタ地帯で雨水集水タンクをはじめとする水関連事業を行っており、福岡ハビタット研究会を通じて寄せられた義援金により、エーヤワディー管区の Pyapon 及び Dedaye 地区の 6 村の学校に 5,000 ガロンの雨水集水タンクを設置した。

| No. | Township | Village | Type of school | Total Students | Total Teachers | Tank Storage Capacity |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | Pyapon | Gay Gu | Primary | 199 | 4 | 5,000gal |
| 2 | Pyapon | KonDine | Primary | 133 | 5 | 5,000gal |
| 3 | Pyapon | Chaung Twin | Primary | 173 | 5 | 5,000gal |
| 4 | Dedaye | KularKonDan | Post-Primary | 440 | 9 | 5,000gal |
| 5 | Dedaye | KaDar | Post-Primary | 176 | 5 | 5,000gal |
| 6 | Dedaye | TaMawtWa | Primary | 160 | 4 | 5,000gal |
| | | | | 1,281 | 32 | |

本事業により、サイクロンにより被災したエーヤワディー管区 6 村の 1,281 人の生徒及び 32 人の教員が安全な水を飲めるようになっただけでなく、緊急時のコミュニティの飲料水を確保できるようになった。また、本事業に携わった男女約 100 人は、事業を通じてタンク設置の技術を学ぶことができた。

## 事業写真

住民の意見を取り入れ、事業を実施

事業を通じて技術を学ぶ

完成した雨水集水タンク

**受益者の言葉**

私達は、このような事業で初めて自分たちの意見を言えました。私たちの村では、このような事業がほとんど実施されないし、また、事業が必要か等の意見も求められたことはありません。国連ハビタットの日本の皆さんの支援による今回の事業は違いました。私達は、意思決定や事業実施の一部を担うことができ、事業成果の質や今後の維持に責任を感じました。自分たちの事業だと思えました。

Pyapon、ChaungTwin 村、Daw Khin Myo Sat

## 中国

１　事業名：　四川大地震被災地における水と衛生教育事業
２　対象地区：四川省綿陽市
３　実施機関：国連ハビタット
４　協力機関：綿陽水道公社（Mianyang Water（Group）Co. Ltd）

５　事業内容：
綿陽市は、2008 年の四川大地震で被災した四川省第 2 の都市である。被災経験を通じて、綿陽市は人々に水と衛生教育を行い、人々の生活改善を図り、環境保全と健康維持の関連性に対する理解を深めることを目的とした事業を国連ハビタットに提案した。国連ハビタットは、福岡ハビタット研究会を通じて寄せられた義援金により、水と衛生教育事業を実施した。

下記の 4 つの学校がパイロット校として選定され、学生や教員への水と衛生に関する意識調査を行った。

| No. | Name of School | Total Students | Total Teachers |
|---|---|---|---|
| 1 | No.15 Middle School | 320 | 29 |
| 2 | Mianyang Fenggu Primary School | 760 | 41 |
| 3 | Wujiazhen Primary School | 1,100 | 72 |
| 4 | Wujiazhen Junior Middle School | 700 | 46 |

その後、教員や地域代表を対象とした水と衛生教育トレーニングを 1 週間行い、綿陽市の第 3 水処理場等の見学も行った。教員や地域代表へのトレーニング終了後、各パイロット校の生徒たちに同様のトレーニングを行い、更に、その他の学校でトレーニングを行った。

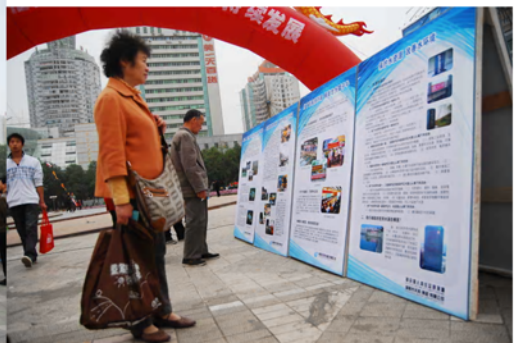
参加者からは初めての水処理場等の見学に大変感銘を受けたという感想が多数あった他、教員の中には、雨水集水タンクを学校に設置して、生徒たちへの授業で使いたいという希望を出す人もおり、今後の活動につなげていきたい。

また、2010 年 3 月 22 日の世界水の日には、各コミュニティで水と衛生に関する意識向上のためのキャンペーンを行った。

# 事業写真

パイロット校における意識調査（#1）と教育トレーニング（#2、#6）

教員対象のトレーニング（左）と水処理場コントロール室の見学（右）



水と衛生に関する意識向上キャンペーン